鯉城

題字は塩田宏司(洲鵬)氏

第73号

広島市中区国泰寺町1丁目2番49号
〒730-0042　広島国泰寺高等学校内
鯉城同窓会
電話(082)241-9777　FAX(082)248-7341
E-mail　rijo@orion.ocn.ne.jp
URL　http://www.rijo.gr.jp

新会長に森信秀樹氏

4年ぶり新体制

令和2年度鯉城同窓会総会は9月30日、同窓会館で約80人が出席して開かれ、新会長に森信秀樹氏（昭和46年卒）を選んだ。今回はコロナ感染予防の観点から、幹事会と総会を連結した「拡大幹事会」の形に変更し、懇親会は取りやめた。

森信新会長は、総会の席上「OBと現役学生との交流の推進を図るとともに、同窓会の財政基盤の安定・強化に努めたい」とあいさつ。会員の幅広い協力を呼びかけた。

細川匡前会長は、2期4年の在任中、同窓会活動に献身的に尽力。母校や母校後輩とのコミュニケーションを図り、巧みでユーモラスな話術を生かして、会員同士のきずなの強化にも努めた。その他の執行部体制も若返りが進み、常任委員会の役員構成も、大幅に刷新された。

「持続可能」な同窓会目指す

「森信新会長の抱負」

この度歴史と伝統ある鯉城同窓会第九代会長を仰せつかりました森信秀樹と申します。

2020年は学校の一斉休校や非常事態宣言などで日常生活や経済活動は未曽有の混乱となりました。この間母校では、卒業式・入学式を粛々と挙行され、休校中は先陣を切ってオンライン授業を全学年実施されるなど学生教職員一致協力の下で第一波を乗り越えられました。

同窓会では平成9年卒当番幹事運営による二木会を3～6月の間は休会せざるをえませんでしたが、万全の感染防止策をとり7月から再開しております。第一回役員会・幹事会は書面決議となりましたが、第二回幹事会は総会と同日開催し、私ども新役員の選出等の承認を頂きました。

また、（公財）奨学財団ではコロナ禍で学業継続に影響が出始めていた全日・定時制の生徒さんへの素早い支援を行うなど細川前会長の強いリーダーシップのもとで時機を得た対応ができました。改めて2期4年間の功績にねぎらいの言葉をお贈りさせて頂きます。

さて、私は会長就任に際し二つの課題に取り組む所存です。まずは母校発展のためOBと現役学生の交流等の推進です。人口減少の流れの中、学生の進路・職業選択への助言やふるさと広島へのUターン支援などについて東京・関西支部とともに情報提供ができればと思っています。次は同窓会の財政基盤の安定・強化です。幸い役員にはアクティブで経験豊富な方々に就任頂きましたので、「入るを量りて出ずるを為す」の精神で前例にとらわれず「持続可能な同窓会」を目指して知恵を出し汗をかいて参ります。

会員の皆様方には、厳しい現状をご理解の上一層のご支援・ご協力を頂ければ幸いです。

〈略歴〉もりのぶ・ひでき　昭和46（1971）年卒業。森信建設株式会社代表取締役社長。総合建設業・介護事業（認知症グループホーム運営）。好きな言葉：誠実。主な公職：広島県人事委員、広島経済同友会特別幹事。広島市中区。

総会で顕彰

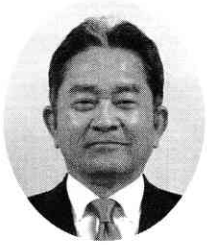
各種の賞を受賞された同窓生の方々が、9月30日の総会で顕彰された。（敬称略）

〈叙勲・褒章〉
（令和2年春）
▽瑞宝単光章（児童福祉功労）
大瀬戸俊子＝昭49年

〈特別表彰・感謝状〉
（顕著な活動の功績）
松尾　聰＝昭29年
金子俊介＝昭41年
田丸健三＝昭41年

心から敬意と感謝

前会長 細川匡氏



前会長
細川匡氏

高校時代はサッカーに明け暮れ、恥ずかしい程の劣等生だった私が、図らずも鯉城同窓会会長を拝命。「会長が頼りない分、皆様には、これまで以上のご支援をお願いします！」無責任なご挨拶を申し上げ、四年が経過。

浅学菲才を顧みず多くの行事や会合に出席し、多くの先輩や後輩と交流を深め、希有な経験をさせていただきました。

卒業式や入学式では、後輩たちに本音で語りかけ、今年度の一中慰霊祭においては、僭越ながら同窓会を代表して追悼の辞を読ませていただきました。

故松尾聰氏から多額の私財をご寄附いただき、設立された奨学財団の理事長も引継ぎました。今後とも松尾先輩の高潔なご遺志に沿うべく、奨学財団の運営に鋭意努力の所存です。

お陰様で久保木敬子事務局長をはじめ多くの皆様から、絶大なご支援を賜る一方、多大なご迷惑をお掛けした四年間でした。

決して責務を全うできたとは考えてはいませんが、唯一大きな心残りは、同窓会の財政です。

入学定員は年々減少し、定時制が閉課程となって、入会金は減収の一途。八木忠士前会長が設けたサポーター制度も、徐々に減速気味。かつての財源であった金利は、ほぼゼロ状態です。

こうした財政難への打開策を示せぬまま、次期会長にバトンを渡すことは断腸の思いです。

財務に長けた格好の後継者、森信秀樹新会長に望みを託しての退任を、何卒ご寛容ください。

四年間に亘る皆様からのご指導ご支援に対し、重ねて心からの敬意と感謝を表します。

これからも森信会長を中心とした新体制の下、我らが鯉城同窓会と母校国泰寺高校の発展と共に、鯉城同窓会員の皆々様のご健勝を祈念申し上げます。

グッド・ラック！

新役員の顔ぶれ

令和2年10月1日～令和4年11月19日（予定）

顧問	八木忠士(昭33年)　碓井法明(昭35年) 細川　匡(昭41年)
参与	福間駿吉(昭24年⑤)　日山隆司(昭24年鯉1) 木坂孝治(昭24年併)　竹林　守(昭29年) 奥田典子(昭33年)　土井敏正(昭36年) 月村俊雄(昭39年定)　金子俊介(昭41年) 田丸健三(昭41年)
会長	森信秀樹(昭46年)
副会長	大石一朗(昭43年)　山口修司(昭46年) 中山正幸(昭46年定)　桂　秀昭(昭47年) 戸田武弘(昭47年)　増本　智(昭47年) 桑原佐智江(昭47年通)　昌子　均(昭48年) 渡部公麿(昭49年)　反田哲顕(昭50年) 酒井文一(昭51年)　越智孝広(昭54年) 三輪京子(昭55年)　榎本暢之(昭56年)
常任委員会	
総務委員会	担当副会長　中山正幸(昭46年定)　戸田武弘(昭47年) 昌子　均(昭48年)　榎本暢之(昭56年) 委員長　山崎拓哉(昭62年) 副委員長　奥窪啓介(昭63年)　奥田敏夫(平2年)
運営委員会	担当副会長　増本　智(昭47年)　越智孝広(昭54年) 委員長　和田啓治(昭58年) 副委員長　北岡一真(昭58年)　小島明子(昭62年)
財務委員会	担当副会長　桂　秀昭(昭47年)　酒井文一(昭51年) 委員長　櫻井嘉尚(昭54年) 副委員長　安井千明(昭61年)　窪川原康登(平2年)
会報編集委員会	担当副会長　大石一朗(昭43年)　桑原佐智江(昭47年通) 委員長　大石一朗(昭43年) 副委員長　小川伸夫(昭50年)　溝上麻樹(昭59年)
資料保存委員会	担当副会長　山口修司(昭46年) 委員長　万徳良男(昭48年) 副委員長　藤井寿美枝(昭48年)
会員委員会	担当副会長　渡部公麿(昭49年)　反田哲顕(昭50年) 三輪京子(昭55年) 委員長　根石紀雄(昭55年) 副委員長　山下浩一(昭49年)　林　雅弘(昭55年) 秋田成人(昭61年)
監事	河野　隆(昭44年)　長野耕治(昭50年)
事務局	中野信司(昭54年)　久保木敬子(昭42年)
当番幹事	平成9年卒　代表　天畠　健史 副代表　高比良恒平　事務局長 森　香 補佐　碓井美由紀　塩谷那奈子 平成10年卒　代表　佐東美亮 副代表　長村尚史　事務局長　高田健司 補佐　吉谷真知　川崎友紀子　廣中春香

新事務局長に中野氏が就任

同窓会の新事務局長に中野信司氏（昭和54年卒）が、10月1日付で就任した。平成25（2013）年4月から7年半にわたって事務局長を務めた久保木敬子氏（昭和42年卒）は、事務局員として残り、中野氏とともに同窓会活動を引き続きサポートする。

新事務局長の
中野 信司 氏

中野新事務局長は、これまでIT関連でソフトウェア開発の仕事に従事し、この4月で定年を迎えた。新たな任務について「事務局の作業に早く慣れ、同窓生の皆さんの連携と母校の発展に寄与できるよう全力で頑張りたい」と抱負を述べている。

久保木前事務局長は「多くの皆様のお力添えのお陰を持ちまして無事に卒業することが出来ましたこと、感謝の念で一杯です」と振り返った。

コロナ禍、同窓会にも大打撃

今年の年初から日本全国に拡大したコロナ禍。鯉城同窓会にも大きな打撃を与え、総会・懇親会や二木会、一中慰霊祭など例年の行事・イベントは、中止になったり、規模を縮小するといった対応を余儀なくされた。鯉城東京、鯉城関西、さらに母校の状況も同様。それぞれの担当者からの報告を紹介する。

検温やマスク着用
会場を変更し総会開催

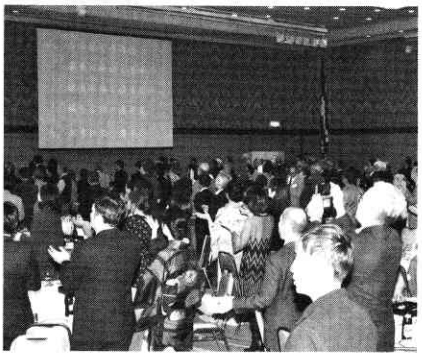
今年は3月からのコロナウィルス感染症予防対策に翻弄された年となりました。

前年度3月二木会が中止。

今年度に入っても6月までは中止。更には同窓会の事業報告及び事業計画等の決議をする役員会・幹事会も、密を避けるため書面決議となるなど、例年にない状況が続きました。

母校も、入学式の縮小化から始まり、合唱祭・文化祭、体育祭など、生徒たちの普段とは異なった活動である「楽しい場である各種行事」が軒並み中止。また、コロナ禍で休学が続く中、先生方もいち早くオンライン授業を開始するなど、生徒とのコミュニケーションを図る取り組みを展開されました。

同窓会館でこぢんまり開かれた今年の総会


リーガロイヤルホテル広島で開かれた昨年の総会

このような中、昭29年卒松尾聰氏から生徒の中に困っている者はいないかとの申し出により、学校と連携し調査した結果、全日制8人・定時制4人、合わせて12人の生徒に奨学金（各10万円）を贈呈しました。

同窓会最大の行事である総会・懇親会も縮小して実施を決め、会場をリーガロイヤルホテル広島（約600人）から同窓会館セミナー（約80人）へ変更。縮小化ということで総会資料も自前で作成。広告依頼で諸先輩と会えるのを楽しみにしていた当番幹事も、機会を失い少し寂しそうでした。

総会当日は、『今できることを精一杯やる』との思いで、出席者に迷惑が掛からないよう〔コロナ感染症予防〕の観点から、会場清掃や机拭き、机の前後左右の距離など配置の確認。受付時には出席者に検温、マスク着用等のお願いをするなど細心の注意を払いました。

また、次年度当番幹事（平成10年卒）6名余りが参加したことも来季に向けた明るい要素の一つであり、ありがたいことでした。

今年度事業は1月からの二木会を残すのみとなりましたが、同窓生のご意見を伺いながら最後まで進めていきたいと考えています。今後とも皆様の御力添えを宜しくお願い申し上げます。

（同窓会事務局）

二木会中止など試行錯誤の運営

まず、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々及びご家族・関係者の皆様に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年度は多くの事業が中止・延期となるなど楽しみにされていた皆様におかれましては、このような事態となり大変申し訳ございません。

過去例にない3月から6月まで二木会の中止、2020年度総会 懇親会の中止となるなど、先行き不透明な状況のなか、鯉城同窓会「二木会」運営を試行錯誤しながら行ってまいりました。

再開された二木会では校歌斉唱を自粛

また、9月30日に鯉城同窓会館にて拡大幹事会・総会をとり行い、第九代鯉城同窓会会長 森信秀樹様、新役員人事も承認され新たな船出となりました。改めて、当番幹事一同気を引き締めて、残り短い任期ではございますが今後も誠心誠意取り組んでまいります。

今年度の年間テーマは「輪舞～世代を超えて 想いをつなげて～」です。

出席の事前確認、校歌斉唱を自粛するなど、内容の大きな変化がありました中で、二木会にご来場頂きました皆様に、当番幹事一同深謝申し上げます。

少しでも多くの皆様に同窓生としてのご縁が繋がり広がり、この鯉城同窓会の結束が少しでも強くなったのであれば幸いです。

最後に、これまでの運営にあたり、我々当番幹事をサポートして頂いた事務局、各委員会の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

（平成9年卒 当番幹事代表・天畠健史）

規模縮小し開催
再会期して一中慰霊祭

被爆から75年。

当時広島一中校舎で被爆した生徒たちの内、現在生存している者が1人になった。

核爆弾の怖さを体験伝承として後世に語り継ぐ活動を展開している一年生だった兒玉光雄さんは毎年帰るときに「来年もお参りができるかの～」と言われる。

被爆した方々やそのご家族には毎日が大切で大変な時を過ごしているのだと心に響く。

コロナ禍の中、「今年の慰霊祭は中止?」との思いがよぎる。「来年もここでお会いしましょう」との言葉が脳裏を巡り「縮小しても実施しなければならない」と決意。お世話をする平成9年卒当番幹事代表に思いを伝え、思いつく全ての予防対策で万全を期すこととした。

前列左端が兒玉光雄さん

当日、兒玉光雄さんは車椅子での参加。追悼の辞に、当時に思いを馳せる様子が伺える。生徒代表のことばにうなずきながら目を閉じる。同級生代表の献花。長い間、目を閉じ、手を合わせる。

同級生のご家族、同窓の皆さん、ともに活動している方々の笑顔に「実施してよかった」と無事に終わったことに安堵した。

「来年もここでお会いしましょうね。お元気で!」と言い交わすあいさつに『来年も必ず実施』と強く慰霊碑に誓った。

（同窓会事務局）

鯉城東京同窓会
「二水会」中止 来年は開催を
（昭和40年卒 会長・中村怜次）

鯉城東京同窓会
中村怜次会長

会報「鯉城」第73号の発行まことにおめでとうございます!!

広島も新型コロナの影響を受け、会員の皆様も感染の防止に、ご努力されていることと存じます。

連日の報道にもありますように、私達「鯉城東京同窓会」の会員が住んでおります東京、神奈川、埼玉、千葉周辺の感染者が中々減少せず、不安な毎日を送っております。幸いなことにTW（テレワーク）の人や、ラッシュを避けた時差出勤をされている方も多く、通勤時間帯の混み具合は以前と比べ減少しております。

さて「鯉城東京同窓会」は毎年5月と11月の第2水曜日の夕方、若者を中心としたお洒落な街「原宿」で「二水会、総会」と称して開催しております。今年は開催出来ませんでしたが、いよいよ来年は東京オリンピックの年にもなります。

ウイルスも治まり、例年同様の約100名の「会員の皆さんの参加!」をご期待しているところでございます。すぐ近くには「新国立競技場」も出来ており、会員以外の同窓生の皆さまにも、是非ご出席頂きたいと思います。

熱烈歓迎致します。

終わりに、コロナ禍の一日も早い収束とともに、鯉城同窓会の今後益々の発展と、会員の皆様のご活躍、ご健勝を、心より祈念致しております。

鯉城関西同窓会
諸活動取り止め「会報」発行のみ
（昭和42年卒 幹事長・川端由美）

鯉城関西同窓会は、第14回総会を3月8日（日）、例年通り大阪新阪急ホテル「花の間」にて開催する予定でおりましたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、止むを得ず延期することといたしました。

また、例年8月の第1土曜日に開催しておりました「トーク&昼食会」も同様の理由で来年に延期致しました。

ところが、総会につきましては、規約上何としても開催する必要があり、9月13日（日）に会場を変えて開催することにし、感染防止を鑑みて、委任状による参加も可とさせていただきました。

当日は、委任状130名、出席31名の計161名の参加で総会が成立致しました。

第1号議案（2019年度事業活動・会務報告・同会計報告・同監査報告を、また、第2号議案（2020年度事業計画・予算案）に関しては、福原会長より、今後の活動については状況を見ながら実施するということでご了承いただきたいとのお願いがあり、これら全てを満場一致でご承認いただきました。

講演会も来賓のご臨席も応援団の演舞もない総会でしたが、鯉城関西同窓会としてコロナ禍の時代の活動をご承認いただきましたこと、感謝しております。

今のところ、年内の諸活動（各クラブ・同好会の活動）は全て中止となり、第14号「会報」の発行のみとなります。今回の「会報」は、「コロナの時代を生きる」というテーマの特集になっております。お目に留まりましたら、是非ご一読いただければ幸いです。

再び、これまでのように活発な活動が開催され、会員同士の親睦が深められる日が来ることを心から願っております。

同窓会の支援に感謝

母校から寄稿

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、学校でも様々な対応を迫られました。また、同窓会の皆様にも多くのご支援をいただきました。その一部をご報告させていただきます。

今年度4月に学校が再開されて以降、発熱等の症状の有無について、毎日「健康観察カード」を記入しております。この取組によって「学校にいる生徒・教職員は皆健康です」という安心安全な環境を保障しております。

しかし、始業式、入学式が終わりしばらくして、また臨時休校が決定されました。そこで、本校では、一・二年生が全員パソコンを購入していたこと、また、三年生も全員インターネット環境があったことから、オンライン授業を行うこととしました。生徒の学習を保障するために、できるだけ学校生活に近い形で行いたいと考え、日課と時間割に沿ったオンライン授業を、休校になって3日後から全学年で開始しました。

その後、分散登校を経て、6月より学校が通常通り再開されました。コロナ禍でのストレスに配慮し、個人面接を実施し、生徒全員から丁寧に話を聴き取り、心のケアを行っていきました。そのような折、鯉城同窓会奨学財団の方より、経済的に困窮している生徒に対して支援したい旨のお話をいただきました。全日制・定時制の希望する生徒全員に対して10万円ずつ給付いただき、該当生徒・保護者ともに大変感謝しておられました。

また、部活動も当初は様々な制約がありましたが、「学校の新しい生活様式」にしたがって、徐々に活動ができるようになりました。鯉城同窓会母校振興費では、「密を避ける」ため部員同士の対人練習ができない剣道部に対し、打ち込み台を購入していただく等、当初の予算を超えたご支援をいただきました。

このように、コロナ禍にあっても本校は、同窓会の皆様の熱い想いに支えられ、生徒・教職員が一丸となって前進しているところでございます。厚く御礼申し上げますとともに、今後ともよろしくお願いいたします。

(母校全日制教頭　渡辺和恵)

画家・南薫造の没後70年記念展

洋画家・南薫造（明治35年卒）の没後70年を記念して、遺族から寄贈された作品約80点が、呉市安浦町の南薫造記念館で10月から3期に分けて順次公開されている。

南は広島一中を卒業後、東京美術学校（現東京芸術大）に進学。その後は、中央画壇で活躍しながら、母校の教授を務めた。戦時中、職を辞して故郷に疎開し、昭和25（1950）年に亡くなるまで、生家のアトリエで画作に励んだ。

今回の第1期の展示は約35点で、来年1月末まで。以降、同年秋まで2期、3期の作品展が開かれる。

平成25（2013）年の同窓会館オープンに合わせて、故郷の山の風景を描いた南の作品「山間早春」（10号）が遺族から寄贈され、メモリアルルームに展示されている。

令和元年度決算報告（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

Ⅰ　一般会計の部

収入の部			支出の部			
前年度繰越金		7,956,346	会報製作費	2,822,626	母校振興費	561,880
会費等		3,108,396	事業費	387,992	慰霊碑献花料	41,380
	入会金	2,760,000	HP管理会員名簿管理費	1,351,068	慶弔費	1,574
	終身会費	348,396	二木会助成費	940,052	事務費	1,524,000
寄附金		2,751,840	消耗品費	185,555	光熱・水料費	108,070
	サポーター制度寄附金	2,280,833	印刷費	41,800	会館管理費	108,800
	寄附金	471,007	通信運搬費	288,132	手数料	6,634
雑収入		156,432	会議費	226,581	雑支出	51,859
	電話使用料、利息等	156,432	顕彰費	149,160	－	－
収入計		13,973,014			支出計	8,797,163

Ⅱ　基金

1　鯉城同窓会基金　（単位：円）

前年度繰越金	11,079,757
次年度繰越金	11,079,757

2　教育振興基金　（単位：円）

前年度繰越金	16,500,000
次年度繰越金	16,500,000

伝統のヨット部OB会 30年ぶりに再発足

昭和51年卒　住田　泰

今年の2月8日（土）、鯉城同窓会館において、18名が参加して、広島県立広島国泰寺高等学校ヨット部OB会、通称「鯉城ヨットクラブ」が、約30年ぶりに再発足しました。現在の名簿上の会員数は229人です。

計画では9月に役員会、10月に総会を開くことになっていましたが、今年は新型コロナの影響で役員会・総会が開かれていません。令和2年度中に、会報の発行と総会の開催を考えています。

前回のときは、本校の卒業生で、教諭で、広島県ヨット連盟の会長でいらっしゃった渡辺文人さん（故人）を会長に発足しました。国泰寺高校ヨット部のOB会として期待されたのですが、残念なことにそのまま立ち消えになってしまいました。

再発足した会の目的は、「広島県立広島国泰寺高等学校ヨット部OB会員相互の親睦を図り、母校広島県立広島国泰寺高等学校ヨット部の発展に寄与することを目的とする。」と会則に定めてあります。OBが集まって楽しく語らいながら、現役のヨット部の活動に寄与できたらと考えています。

さらに、社会貢献（ボランティア）もできるようになればという声もあります。

「継続は力なり」と言います。会報を毎年一回出すことと総会を年に一回開くことを目標に、鯉城ヨットクラブの活動を続けていこうと考えています。

皆様の応援をよろしくお願いします。

（広島市中区）

再発足の会合に出席したメンバー

野外ステージでの演奏会は盛り上がった

吹奏楽部OB 和やかに演奏

昭和39年卒 田中 聡

9月19日、広島市東区民文化センター野外ステージで、吹奏楽部卒業生による第7回KBS（国泰寺ビッグサウンズ）演奏会を開催しました。出演者18名、平均年齢70歳、年齢差20歳。ジャズ、ラテン、懐かしのメロディー等の16曲を奏で、会場でも多数のアンケートからも絶賛を頂戴しました。

二木会の常連さん達も多数ご参列戴き、皆さん曲に合わせて、歌ったりリズムに合わせる等、様々に楽しんで戴きました。母校関連で活躍してくれた小川直美さんの若々しい声の司会が華を添え、また偶然にも会場担当者が母校卒業生で大変お世話になりました。

元々ブラス（金属）楽器は野外演奏に適しており、野外ステージではブラスらしい伸び伸びとした音楽を楽しんで戴けたと思います。私個人としては、年代の違う仲間達と楽しく演奏できて「母校でブラスバンド部に居て良かった」と母校に感謝しています。

さて、当会には一つ希望があります。それは毎年の同窓会総会の舞台の袖で継続的に演奏させて戴く事です。卒業年度による「横のつながり」とは違った、クラブ活動による年代を超えた「縦のつながり」を参列者の皆さんに感じて戴き、他のクラブでも「縦のつながり」を活発化してクラブテーブルができて若者が増える総会も良く、「縦のつながり」を重視した鯉城同窓会が、若者を巻き込んで益々発展して行く事を心から望んでいます。

（広島市中区）

令和3年度 総会

日　時　11月20日(土) 17：00

場　所　リーガロイヤルホテル広島

当番幹事　平成10年卒業生

鯉城関西同窓会総会
3月14日(日)
開催　11:00
大阪新阪急ホテル

鯉城東京同窓会総会
5月12日(水)
開催　18:30
東郷神社内「ピーターハウス」

私の近況

健康に留意して二木会に出席を

昭和29年卒　岸田　卓也

私の近況ですが、85歳となれば、老人会、町内会、社会福祉協議会等の町内のお世話以外には、あまり変わったことも起きません。

私が鯉城同窓会にかかわりを持ち始めたことを書いてみたいと思います。

17、18年前ですが、昭和55年卒の方が当番幹事の年でした。

恩師を囲む会を開いている年度の方々の様子を取材したいとのことで、高橋成章先生のクラス会を宮島口の私の家で開き、ビデオ撮影をして頂きました。

その様子を二木会で見せて頂くので出席したのが「二木会デビュー」となりました。

その後も私たちの年度の方々の出席も多くなり、それが同期会を開く力となり、同期会を毎年開くようになりました。しかし同期生も年とともに少なくなり、連絡が不能になる方も多くなりました。

やがて、同期会も開きにくくなると思いますが、せめて二木会には出席できるよう、元気でいたいと思います。

（広島県廿日市市）

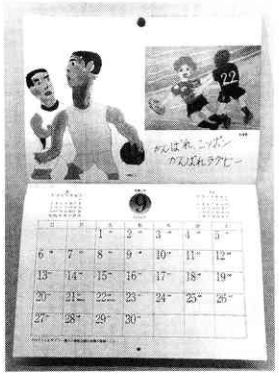
コロナ禍に負けずお絵かき教室指導

昭和38年卒　川原　信子

壁の定位置にかけてあるカレンダーの9月の絵は「がんばれニッポンがんばれラグビー」と添え書きした絵が空しい！

広島市身体障害福祉センターで月一のお絵かき教室でみんなが一生懸命に描いたカレンダーは今年で18冊目となりました。

初めて描くスポーツの絵は、オリンピックムードで盛り上がっているだろう予測をして描いた絵なのです。



コロナ禍で教室もお休みをし再開した時の彼らの変わらない様子に安堵しました。

彼らに接することで元気をもらい、何気ない気遣いに励まされながら歳月が過ぎ今日があるようです。これからも出来るだけ長くみんなと一緒に大切な時間を共有したいと思っています。

また今年、記念すべき仕事として9月にオープンした「フォーシーズンズホテル東京大手町」のロビーの天井アートのデザインを手掛けさせていただきました。コロナ禍で作業を見ることができなかったのですが、10月初めに作品と対面できました。

ウイズコロナが消えない現状の中、新しい日常生活を楽しむ事ができますように・・・。

（広島市南区）

移住ライフ満喫染色作品を制作

昭和49年卒　下村　純子

生まれ育った広島から、福岡市に隣接する糸島市に移住し早や3年たちました。子ども2人が福岡市内に勤めている事もあり、夫の退任を機に、縁もゆかりもなかったけれど思い切ってここを終の棲家としました。皆によく決断したねと言われましたが、海も山も近い自然の中で、豊富な食材にも恵まれた今の暮らしは気に入っています。

ライフワークと言えるかどうか分かりませんが20代から始めた染色をこちらでも続けています。庭に小さなアトリエ小屋を建てて、主婦をしながらの制作です。現在は㈶現代工芸美術家協会に所属し、春の公募展・夏の九州会展に出品する傍ら、秋の日展へは入選したり落選したりの日々を送っています。

作品の構成やデザイン、色彩や技術が中々思うようには進まず落ち込むことも多いですが、下図が決まってやり始めると夢中になっています。苦しいけれど楽しい時間です。

最近は孫の影響もあり、地球環境に関心が向くようになりました。自分なりの環境メッセージを作品の中に投影できればと考えているところです。

さて、それにしても今年のカープは悲しすぎます。福岡に来ても魂はソフトバンクに売ってはいません。夫と二人カープが贔屓です。頑張れカープ！離れていても応援してるよ!!

（福岡県糸島市）

退職後は国内外で日本語教師の活動

昭和51年卒　佐々川　修二

36年余にわたる新聞記者生活を終えて、日本語教師としてセカンドステージを歩んでいます。雇用延長よりも、定年を機にそれまでとは違う人生を歩んでみたい。ちょっと格好つけていうと、「人生二毛作」への憧れのようなものがありました。

で、退職した一昨年秋、国際交流基金の「日本語パートナーズ」という活動に参加しました。東南アジア各国の高校生に、日本語や日本文化を伝えるとともに、自らも現地の言葉、文化を学ぼうという企画です。インドネシアのマナドという海辺の街で、半年間暮らしました。習字やけん玉遊び、たこ焼きづくりなども大事な活動です。素直で人懐っこい高校生や先生方とともに笑いの絶えない日々。大いに友好を深めたところであります。

昨年秋からは、日本で看護師、介護福祉士を目指す若者のための日本語研修で、やはり半年間ほどジャカルタへ。今度は日本語と真正面から向き合う仕事です。母語でありながら自分が知らないことも多く、それをどうわかりやすく理解してもらうか、悪戦苦闘していました。また、一緒に活動した日本語教師約30人のほぼ全員が僕よりもずっと年下。韓国のアイドルグループBTS（ご存知ですか？）がどうとか、「進撃の巨人」（野球チームじゃないです）がこうとか、話がかみ合わない場面も少なからずあるのですが、これはこれで楽しいものでした。

今は、神戸の日本語学校で教え

ています。対面とオンライン授業を並行させるハイブリッド授業って言うんですか。ICT（情報通信技術）なるものに極端に疎く、世の進歩についていくのに必死です。それでも、たくましく一歩ずつ前へ。

気持ちはいつでも「質実剛健」であります。

（神戸市兵庫区）

保育者の養成へ微力ながら貢献

平成3年卒　古林　ゆり

現在私は、保育者養成校で教壇に立っています。とはいえ、教員を始めてまだ5年目で、それまで障害者施設で5年、新設保育園の主任保育士として15年働いていました。福祉現場の職員と大学教員というのは随分違いがあり、40代半ばの転職は不安が大きくありました。

インドネシアの学校。中庭での授業。

それでも現職に就こうと思ったのは、「保育士不足」や「子どもの虐待」などの保育に対するマイナスイメージがメディアで先行し、保育士や幼稚園教諭という仕事に夢を持ちにくくなっていると感じたからです。私は子どもを育む保育者という仕事は「未来」を信じる仕事だと思っています。そんな素晴らしい仕事を学生たちに夢を持って目指して欲しいと考えています。

私には世の中を大きく変える力はありませんが、現場で培った「子ども（利用者）を理解する力と保育技術」を持って、保育者を目指す学生の教育を行い、微力ながら社会福祉に携わっていきたいと思います。

今も続く高校の同級生とのつながりに支えられながら・・・。

（福岡市東区）

サッカー部の日々を今も胸に美容師の道

平成8年卒　和田　洋幸

国泰寺高校を卒業して、25年が経ちました。現在は、神奈川県川崎市に住んでいて、川崎駅の近くで、妻と従業員と4人で小さな美容室を営んでいます。子供は、今年小学生になった息子と去年生まれたばかりの娘がいます。

息子はサッカーをしています。とくにやらせたかったわけじゃないんですが、サッカーの意味も分からないまま、友達と遊べると思ってサッカースクールに通い始めました。

はじめは味方のボールを奪おうとしたり、自陣のゴールへボールを運んだりしていましたが（苦笑）、1年半サッカーを続けているので、少しは様になってきました。

僕は国泰寺高校を卒業して、神奈川県へ来ましたが、何も考えないまま、いや、その時は考えていたのかもしれませんが、大学を中退して美容師になってしまいました。

美容師になっても、何となく日常を過ごし、今思えば、とても無駄の多い時間だったかもしれませんが、お店を持ち、子供が生まれて、何がしたいのかが明確になり、夢中になって幸せな日々を過ごしています。

国泰寺高校のサッカー部での日々が活かされているなぁと感じる今日この頃です。

（神奈川県川崎市）

「完全放牧」実施し究極の牛乳を模索

平成11年卒　久保　宏輔

今から4年前の2016年に家業を継ぐべく、東京の会社を退職して帰郷しました。現在は広島市佐伯区湯来町にある砂谷牧場で働いています。マツダスタジアム7個分の敷地に牛を約120頭飼育し、毎朝夕乳を搾り、自社工場で殺菌、加工を行います。牛乳は、主に広島市内の家庭に宅配でお届けしています。牧場では、ジェラートやカフェを楽しんで頂けます。

今回のコロナウィルス感染拡大は、酪農にも大きな影響をもたらしました。牛乳が毎週約6トン余る事態になり、砂谷牛乳も窮地に陥りました。病院や介護施設への無償提供などにより廃棄を減らすべく努力しましたが、牛乳は減りません。窮余の策として、牧場でのドライブスルー販売を行ったところ、悪天候にもかかわらず、5000本の牛乳を皆さんの手に取って頂くことができました。応援の声も本当にたくさん頂き、改めて多くの人に支えられて今があることを実感しました。

そんな中、今僕が考えているのは、本質的な価値をお届けしたいという事です。安心安全で美味しい牛乳を作ることは当然の事として、牛がどのような環境で、どのように育つのか、牧場で多くの人に体感してもらいたいと思っています。そのために、日本で10％以下と言われる完全放牧（放牧された牧場で、その土地でできる餌だけを食べて牛を育てること）に挑戦していきます。

11月に山を整地し、12月には牧柵を設置、来年1月には牛を放して行きます。循環型農法の実践を通して次の世代に豊かな牧場の風景を残していきたい。牧場に来てくださった方々に、一杯の牛乳の背後にあるストーリーを伝えたい。これは創業者であり、僕の祖父の目指した姿でもあります。僕が国泰寺高校に入学したきっかけは祖父の母校であったからです。その母校の皆様に近況報告をする機会を頂けたご縁に、心から感謝いたします。

（広島市佐伯区）

歯科衛生士の魅力伝えたい

平成13年卒　相見　礼子

「不安を感じていましたが、自信がつきました」こんな受講生の言葉に、仕事のやりがいを感じています。私は、歯科医院で衛生士として勤務している他、広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センターで特任助教をしています。復職支援や新人歯科衛生士の技術向上や離職防止を目的に有資格者に対して教鞭をとっています。

歯科衛生士は、歯科医師のお手伝いをする仕事という認識の人も多いですが、口腔の疾患を予防する処置として専門的な知識や、歯石の除去など高度な技術が必要な専門家です。だからこそ、自分のキャリアに「ブランク」ができてしまうことに不安を感じる方も少なくないのです。私がこれまで培ってきた現場目線の知識や技術を提供していくことで、不安を抱く復職希望の方や、新人の歯科衛生士が、自信を持って患者さんと関わることのできるようにしていきたいと思っています。

今後は、歯科衛生士の資格がな

いアジア諸国に資格を普及させ、医療水準向上のお手伝いをしていきたい。そんな夢を抱いています。

（広島市南区）

ラジオの世界に戻る日を心待ち

平成20年卒　冨田 奈央子

7月に二木会にて講演をさせていただいてから、あっという間に月日が流れました。諸先輩方の前でお話するのは大変緊張しましたが、温かい気持ちで見守ってくださり、とても感謝しています。

さて、フリーアナウンサーとして、4月から広島FMにて「冨田奈央子のぶらフラ！」という番組を担当しておりました。しかし9月一杯で、半年間放送した番組が終了となりました。

県内様々な場所へ足を運んで、その町の魅力やイベント情報を取材して伝えるコンセプトだったため、コロナの影響もあり、番組の存続が難しくなってしまったのです。また、プライベートでは年末に出産を控えております。

ラジオの喋り手は、沢山の人生経験を積んでこそその個性が光るといわれています。本来ならもっと早く妊娠のことも公表して、不安な気持ちも、楽しみな気持ちも、沢山のリスナーと共有したかったのですが、コロナの影響でそれも自粛せざるを得えず、ギリギリの発表になりました。

もしまたラジオの世界に戻れる日が来たら、その時は「元気一杯なお母ちゃん！」になって、マイクの前に立ちたいと思っています。その時はぜひ皆様のお耳にかかれたら幸いです。

（広島市南区）

お好みソース普及へ異郷の地で創意工夫

平成23年卒　安村　拓美

在学中は、サッカー部に所属し、全国大会出場を目標に、厳しい練習に励む毎日を過ごしておりました。高校最後の大会では、県大会ベスト4という結果に終わり、目標こそ成し遂げられませんでしたが、高校時代の経験と仲間は、今でも貴重な財産となっております。

現在は、生まれ育った広島のソウルフードでもある「お好み焼」を全国に普及させるべく、オタフクソースの営業職として、名古屋で仕事をさせて頂いております。スーパーマーケット様や、外食店様などで、オタフク商品をご使用頂けるよう、工夫を凝らしながら、提案を行う毎日です。広島と違い、まだまだブランド力が弱い市場の為、苦労もありますが、在学中に培った忍耐力や協調性を武器に、充実した毎日を過ごしております。

プライベートでは、趣味のフットサルを週1回ほど、行っております。昔と同じように身体が動かないもどかしさを感じつつ、何歳になっても、どこにいても、ボール1つで沢山の友達を作ることのできるスポーツの素晴らしさを再認識しながら、楽しんでおります。

新型コロナウィルスで世界中が大変な状況ではありますが、与えられた環境の中で、精一杯楽しみながら、今後も、より一層の努力と工夫を重ねてまいります。

（名古屋市千種区）

母校愛の結晶「奨学財団」

世の常とは言え、同窓会に貢献された方々とのお別れが、今年も相次いだ。そのうち4人の方についての追悼文を、次ページにかけて掲載する。

浄財を寄贈し「奨学財団」の礎を築いた松尾聰さん（昭和29年卒）を偲ぶ

（昭和24年⑤卒　同窓会参与・福間駿吉）

貴方の訃報を知ったのは7月9日の朝刊でした。3日、病気のためとありましたが、長い闘病生活のさ中にも途切れることは無かった貴方の熱い母校愛の結晶とも言える『公益財団法人広島国泰寺高等学校鯉城同窓会奨学財団』の運営が着実な歩みを刻んでいることは、今にしてなによりの餞（はなむけ）であったろうと思うのです。

学年で言えば4年先輩の私とは仕事を通じての交流もあり、その私がたまたま鯉城同窓会副会長だったことを機縁に彼が奨学財団の話を持ち掛けてきたのが平成26年2月18日の夜の電話でした。以来、同窓会との話し合いのため彼も度々来広するし、5月半ばには全国の公立高校同窓会奨学財団第1号として話題の埼玉県の県立浦和高校同窓会を訪問、情報収集に当たるなどいろいろあって同年12月に公益財団法人の設立認可－翌年5月奨学生第1号を送り出して早や6年が経とうとしています。

10月14日に東京・帝国ホテルで開かれた「お別れの会」

カルビーは広島で育ててもらった会社である、とは創業者である松尾孝先輩（昭和6年卒）の口癖でしたが、ご尊父の遺志を体して松尾君も、本社機能は東京に移転後も長く広島南法人会の会長を務める一方、クリスチャンの立場で「広島いのちの電話」の立ち上げから社会福祉法人設立まで10年余り理事長として物心両面にわたる支援を惜しまなかったあたりのボランティア活動などは特筆されてもいいのではないでしょうか。

松尾君、貴方はどこまでも陰徳の人でした。先輩としても誇れる後輩でした。同窓会を代表して「有難うございました」と申し上げてお別れの言葉とさせて頂きます。

95歳まで二木会出席

95歳まで二木会に出席し続けた松井義武さん（昭和16年卒）を偲ぶ

（昭和34年卒　上神慶紀）

96歳の天寿を全うされた松井先輩に心より哀悼の意を捧げます。昭和15年生まれの私と、同16年一中卒の先輩との繋がりは、16年卒の石内茂夫先輩を介してでした。

左から3人目が松井さん。右端が筆者

特に昭和18年に長崎高商の時学徒出陣し多くの同期の仲間を失い、自分は8月6日生まれだけど、原爆で多くの人命を失ったとの思いで平和を切望されていました。酒を酌み交わす中で「校歌、応援歌」のCDの中の一中生徒歌の「鯉城の夕」は特にお好きでした。

令和元年9月の第554回二木会の誕生祝の時の、元気なユーモア溢れる挨拶の中で「一番の楽しみは今日ですね。一中と分かれていてもこうして皆さんと会える。一中に行って良かったなと思います。」と言われ「次回も来たいがいつお迎えが来てもおかしくないのでわからないが…」と言われたように、この会が最期で大往生を遂げられました。

あの世で同期の方達と楽しく談笑されている事でしょう。

松井先輩は、備後の地元で「夢街道ルネサンス」での「銀山街道上下宿・街並み保存委員会」の会長として自らガイドを務めながら活躍してこられました。

先輩は二木会に片道2時間かけ欠かさず来訪され、ホテルに宿泊され頭の下がる思いでした。私宅にも3度お泊り戴き学生時代、軍隊時代、戦後の事を色々話して貰いました。

会報づくり通じ二人三脚の活動

同窓会参与の伊藤暉さん（昭和35年卒）を偲ぶ

（昭和43年卒 会報編集委員会委員長・大石一朗）

手元に会報「鯉城」のバックナンバーがある。平成20（2008）年の第61号から67号まで、当時の広報委員会の責任者として、伊藤さんが毎年、編集後記を書いておられる。

振り返れば、私が新聞社に入社した時以来のご縁になる。後に伊藤さんから同窓会の会報編集の作業を手伝うように言われ、一緒に活動するようになった。病気を打ち明けられたのは、今年の正月明けのこと。「実は先日、入院したんだ。誰にも言わないでくれ」と。

同期の皆さんと。左端が伊藤さん

7月末に携帯で話した際、初めて聞く弱々しい声で「涼しくなったら退院できるだろう。その時は真っ先に連絡するから」。これが最後の会話になった。

会報づくりの責任者を私が引き継いだ後も、会報の出来について気づきを指摘して下さり、時にはリップサービスをいただいた。私としては答案用紙を提出し、評価・採点を待つ生徒のような気持ちだった。

最愛の奥様と102歳のお母様を残して先立たれた伊藤さん。無念の思いが多々あったに違いない。今年の会報編集は今やピークを迎え、相談したいことはいくつもある。不肖の後輩の思いをよそに、遺影となった伊藤さんは笑みを浮かべるだけで、何も言ってくれない。

ゴルフやバンド長い友情に感謝

昭和43年卒の学年代表・下村純一君を偲ぶ

（昭和43年卒　中村憲彰）

卒業以来、学年の代表を務めてくれた下村君が、この春、70歳でこの世を去った。

高校二年の時に同じクラスになり、そこが長い交流の始まりだった。校内の付き合いだけでなく、放課後を利用してバンドを組み、彼はベース、私はボーカルを担当した。ある合同演奏会の際、私が途中で歌詞を忘れ、舞台で立ち往生した。痛恨の失敗を彼がからかったことは一度もない。まさに人柄だろう。

左端が下村さん。その隣が筆者

ゴルフを始めてからは、一緒によくコースを回った。25年前から同期の有志で、年に2回のコンペを楽しむようになる。優勝目指して競い合う時期がしばらく続いた。その意味では、よきライバルでもあった。

追悼文の類を一切書かない私の性分を、彼はよく知っている。今回のこの文章。「ケンショウ（仲間うちの私の愛称）よ、どういう風の吹き回しだ?」と苦笑するに違いない。

10月23日、通算50回目の同期会コンペがあった。その「追悼コンペ」には16人が参加。集合した時から、彼の話題で盛り上がった。コースを回りながら、早めにプレーを終えた彼が天空からわれわれを見ているような気がした。

お悔やみ申し上げます

（令和元年11月1日～同2年9月30日の間の死没者で過去掲載されていない方々、敬称略）

石田耕造（旧教職員）
伊東武雄（旧教職員）
今井秀明（旧教職員）
片山敏之（旧教職員）
吉川静一郎（旧教職員）
国広正二郎（旧教職員）
車　義博（旧教職員）
斎藤義英（旧教職員）
住吉正典（旧教職員）
津山カツミ（旧教職員）
寺沢渓次郎（旧教職員）
富高義男（旧教職員）
中本　守（旧教職員）
藤井　守（旧教職員）
豊後　敬（旧教職員）
向井　義（旧教職員）
宗貞義孝（旧教職員）
脇川喜久雄（旧教職員）
畑　茂磨（昭15年）
大島啓志（昭16年）
松井義武（昭16年）
石川秋利（昭17年）
久保木正秀（昭17年）
小林哲郎（昭17年）
満居義信（昭17年）
川原　岳（昭18年）
木本健三（昭18年）
福原剛三（昭18年）
正岡　博（昭18年）
森川二郎（昭18年）

沖崎　隆（昭19年）
笠原義孝（昭19年）
木原　久（昭19年）
田代　裕（昭19年）
多武保清水（昭19年）
丹京人也（昭19年）
寺沢渓次郎（昭19年）
福原賢治（昭19年）
安藤雅由（昭20年）
佐方　潤（昭20年）
矢野　優（昭20年）
沖　明（昭20年）
中田龍爾（昭21年）
天野　實（昭22年）
石本勇太郎（昭22年）
岩崎長喜（昭22年）
大崎博三（昭22年）
津田昌宏（昭20年）
中村一秀（昭22年）
青井康夫（昭23年）
大原省爾（昭23年）
砂子健介（昭23年）
寺尾秀男（昭23年）
西谷　清（昭23年）
本井　豊（昭23年）
金子　忠（昭23年）
吉崎通洋（昭23年）
河村孝司（昭24年⑤）
児玉順次郎（昭24年⑤）
小西清治（昭24年⑤）

住田昭三（昭24年⑤）
山田　實（昭24年鯉1）
山本新一（昭24年鯉1）
岡田芳之（昭24年併）
倉本英治（昭24年併）
黒田良雄（昭24年併）
清水澄雄（昭24年併）
空本寿広（昭24年併）
田熊正治（昭24年併）
濱井公隆（昭24年併）
松尾舜之（昭24年併）
三好　寛（昭24年通）
竹内康三（昭25年）
吉田韶三（昭25年）
石田琢三（昭26年）
津田　勉（昭26年）
石原舜三（昭27年）
和田和子（昭27年）
森原淳子（昭27年）
川村祐三（昭27年）
佐々木義隆（昭27年）
高吉卓司（昭27年）
冨士谷公子（昭27年）
日浦　薫（昭27年）
溝渕善央（昭27年）
樽谷田鶴子（昭27年）
三谷能子（昭27年生）
高松百合子（昭27年生）
岡本昭雄（昭27年定）
西山和之（昭27年定）

藤原節子（昭28年）
近藤礼次郎（昭28年）
中野煦二（昭28年）
中山晴深（昭28年）
藤川雄佑（昭28年）
丸山邦夫（昭28年）
木村雍彦（昭28年定）
小谷久登（昭28年定）
清水博義（昭28年定）
二井内義城（昭28年定）
増田政記（昭28年定）
宮武真澄（昭28年定）
太田春夫（昭28年定）
岩田守雄（昭29年）
松尾　聰（昭29年）
箕岡良之（昭29年）
木川陽子（昭29年生）
末森万造（昭29年定）
三島須美子（昭29年定）
久賀俊正（昭30年）
空　保雄（昭30年）
田村昶三（昭30年）
花木千尋（昭29年）
山本幸雄（昭30年）
井上幸枝（昭30年生）
鍵本嘉雄（昭30年定）
新内　勉（昭30年定）
堀内正博（昭30年定）
小林和子（昭30年定）
渡辺久遠（昭30年定）
大東弘吉（昭31年）
葛原建男（昭31年）
佐伯正記（昭31年）
小田　浩（昭31年定）

垰田正幸（昭31年定）
西塚　勝（昭31年定）
久岡　博（昭31年定）
中井嘉樹（昭32年）
林　多延子（昭32年）
沖川　忠（昭32年定）
竹内守和（昭33年）
田淵　徹（昭33年）
鶴岡孝昭（昭33年）
中西義之（昭33年）
二井　洋（昭33年）
林　裕人（昭33年）
猪原敏夫（昭34年）
吉田興司（昭34年）
青原伊豆美（昭34年定）
大原　尊（昭34年定）
寺尾博美（昭34年定）
藤井　充（昭34年定）
山田照夫（昭34年定）
伊藤暉（昭35年）
前田　登（昭35年）
石丸喜久子（昭35年生）
木村紗代子（昭37年）
田原孔氏（昭37年定）
前原佳子（昭38年）
中井建子（昭39年）
岸　敏夫（昭39年）
児玉一洋（昭39年）
本田博久（昭39年）
加太　武（昭39年定）
白倉美代子（昭39年定）
住本　等（昭39年定）
小嶋和敏（昭40年）

若林英正（昭40年）
伊藤尚真（昭41年）
小川逸雄（昭41年）
佐藤敏雄（昭41年）
反本良文（昭41年定）
下村純一（昭43年）
岩本哲治（昭43年定）
田中博子（昭44年）
田口周二（昭44年）
能地義貴（昭44年）
堤　節男（昭44年定）
伊藤博孝（昭45年）
田島正登（昭45年）
木村良仁（昭46年）
高田聡明（昭46年）
森　真理子（昭47年）
横山和昌（昭47年）
貞政和男（昭49年）
村上玲子（昭49年）
藤下幸二（昭49年定）
尾島節子（昭49年通）
川向榮子（昭49年通）
安原昭治（昭49年通）
西　宏樹（昭51年）
北岡直子（昭51年通）
丸山一枝（昭51年通）
松前圭亮（昭51年通）
溝口文子（昭56年通）
叶　靖太郎（昭59年）
三登　勲（昭59年通）
岩本フサエ（昭61年通）
赤木一文（昭62年通）
福岡健一（昭63年）
柳谷郁世（平成2年通）

荒波人生89年を回想

昭和24年⑤卒 山崎保彦さん

一中や船長時代 歩みまとめ出版

波乱に満ちた船乗り生活を送った昭和24年⑤卒の山崎保彦さんが、89年の人生を振り返り、著書「老船長のLOG BOOK（航海日誌）」（紙とペン書房、1760円）にまとめた。

一中時代の旧友と。後列右端が山崎さん

自作の焼き物作品と山崎さん

弓削島のログハウス

山崎さんは、昭和29（1954）年に東京商船大学を卒業し、大阪商船（後の商船三井）に入社。航海士や船長として、世界各地を訪れた。その間に原爆孤児だった妻靖子さんと結婚。陸上勤務をはさみながら、最後は大阪湾のパイロット（水先案内人）を務め、平成13（2001）年に「海の男」の歩みを終えた。

その間の多彩なエピソードが、随所にちりばめられている。出港直前の虫垂炎発病と手術。南シナ海でのボートピープルとの遭遇。外国船との衝突事故。国際パイロット協会副会長時代の活動…。神戸市に自宅がある山崎さんは、阪神淡路大震災に際して、入院中の義母の救出に奔走したほか、被害の甚大さを目の当たりにした。

苦境を何度も乗り越えてきた今の心境が、著書にはこう書かれている。「わたしの人生は、自分で生き抜いてきたなど格好よいものではなく何かに生かされてきた。（中略）この命の不思議を思う」。

山崎さんは中国・上海生まれ。2歳の時、首の悪性腫瘍を患い、京都の大学病院で手術して一命を取りとめた。幼稚園から小学校三年まで広島市で過ごすが、再び上海へ。現地の中一の時に、広島一中に転入した。被爆当日は、わずか1時間の差で難を逃れた。

同窓会絡みの話題も紹介されている。鯉城関西同窓会の例会で、ある先輩に話しかけられた。山崎さんの小一時代の同級生で「初恋の人だったかも知れない」女性が、その先輩の奥さんであることを知ったときの驚き。「世の中に諸々の偶然はあろうが、こんな偶然ってほんとうにあるのだ」。

陸の男の生活になってから、愛媛県の弓削島に丸木小屋を建て、自宅と島を行ったり来たりの生活が続く。島では、無農薬のレモンを栽培し、陶芸の窯で焼き物づくりに励む。丸木小屋のテラスでのある夜の思いが、こうつづられている。「（わたしは）むかしを楽しい思い出として思い起こすことのできる幸せ者である」。

（会報編集委員会）

編集後記

今回の会報を手にされ「いつもより薄いな」と感じられた方が、どのくらいおられるだろう。その感覚は当たっている。従来の16ページが12ページになったのだから…。

コロナ禍のため、今年「同窓会総会・懇親会」の懇親会が中止され、総会は9月末にこぢんまりと開催された。毎年、その様子を紹介してきた写真特集の2ページが不要になった。加えて、クラス会などは軒並み自粛。これでは「同期会だより」のコーナーが組めない。会報のページ数を減らさざるを得なくなった。

そんなコロナ禍の同窓会への影響を、各部門の担当者に書いてもらった。しんどいテーマだが、これは記録にとどめ、残しておく必要がある。

そんな中、「私の近況」コーナーでは、いろんな分野で頑張る会員諸氏の姿が見られる。最終ページの89歳の元船長・山崎保彦さんもしかり。容器は一回り小さくなっても、内容のレベルは維持したつもりである。

今回、同窓会執行部の顔ぶれが一新された。臨機応変、前進あるのみ。

（大石）

鯉城

鯉城同窓会

第73号 号外

会報「鯉城」の「校了」翌日の10月28日、OBである兒玉光雄さんの訃報が飛び込んできた。一中1年生の時に被爆した兒玉さんについては、昨年の会報一面でも取り上げた。会報の「号外」の形で兒玉さんの歩みを紹介するとともに、今回の会報本紙に収録できなかった「私の近況」原稿を掲載する。

兒玉光雄さん死去
一中1年の被爆体験訴え　88歳

10月28日夕方のNHKニュースで、兒玉光雄さんが亡くなられたことを知った。昨年の会報72号の一面で、兒玉さんの苦難の人生を書いた評伝の出版を紹介したばかり。7月の一中慰霊祭には車いすで参列しておられ、式の後でしばし言葉を交わしたのに…。

お通夜・葬儀会場の祭壇に置かれた兒玉さんの遺影

兒玉さんの歩みをあらためて紹介するために、翌29日の中国新聞記事から引用する。

「広島一中（現国泰寺高、広島市中区）1年生だった12歳で被爆し、がんの手術を繰り返しながら、被爆体験と放射線による健康被害を国内外で伝えてきた兒玉光雄さんが28日、腎臓がんのため広島市南区の病院で死去した。88歳だった」。元の記事では「児玉」となっているが、ここでは生前のご本人が希望されていた「兒玉」の表記とする。

記事は続けて「兒玉さんは1945年8月6日、爆心地から約850㍍の一中の木造校舎で被爆。倒壊した校舎から脱出して一命を取り留めた。同じ校舎や近くの建物疎開作業の動員現場で一中の1年生288人が被爆死した」

ここから激動の人生が始まる。大学卒業後、郷里の町興しに奔走するが、人間関係がもつれるなどして、結局は挫折。その後の転職と苦労。被爆の後遺症による胃がんや皮膚がんの発病。そして、被爆体験を伝承する活動にも心血を注いだ。くじけそうになるたびに、こんな言葉で自分を奮い立たせた。

「わしは（原爆による）あの一瞬で人生が決められたいうようには、思いたくなかった。そんたびに、なにくそ、わしゃ負けやせんと、乗り越えようとしてきたんよ」（評伝「異端の被爆者」）

そんな兒玉さんを、一学年上級だった福間駿吉さん（昭和24年⑤卒）は「命がけで被爆の証言活動に打ち込む姿は、壮絶としか言いようがなかった。すごい生き様だった」と振り返る。

同窓会の久保木敬子前事務局長（昭和42年卒）は、ありし日を偲びながら「一中ゆかりの方々を象徴するお一人だった。兒玉さんの死去で、同窓会の一つの時代が終わったような気がします」と述べている。

あの日登校して被爆し、奇跡的に生き残った1年生は、これで誰もいなくなった。

（会報編集委員会）

私の近況

横浜で弁護士の今「鯉城の絆」に感謝

昭和49年卒　折本　和司

私は横浜市内で弁護士なんて因果な仕事をやっていますが、国泰寺高校での日々は今も色褪せず心の中で息づいています。

被爆二世で平和公園のそばで生まれ育った私は、ジョン・レノンの「Imagine」をリアルタイムで聴いて平和問題とロックに関心を持つようになり、同級生たちと「Layla」というバンド名で音楽活動を始めました。

弁護士になってから平和集会を開いたり被爆者認定訴訟に携わったり、そして「うた9」なるバンドを結成して平和や広島をテーマにしたメッセージソングを作ったりといった私の生き方の原点は紛れもなく高校生活の中で培われたものです。

自作の曲のCDジャケット

今も高校の友人とは親交がありますが、中でも私の代の生徒会長を務めた倉進一（今も広島で知的障害者の施設で責任者として頑張っています）はいつも私を気にかけてくれており、人生の羅針盤、道しるべのような存在です。

また、高校の同級生の兄で高校の先輩でもある世良田和幸医師は今も神奈川県内で総合病院の院長として活躍されていますが、私が扱う医療事件に関する不躾な相談にも「しょうがねえなあ。後輩だからなあ」と苦笑いしつつ、いつも的確な助言をしてくれます。

高校入学から約半世紀が経った今も高校時代から続く絆で勇気づけられていることを実感しながら、もう少し頑張ってみようと思う今日この頃です。

（横浜市）

『誤報のお知らせ』

物故者名簿のページに誤りがありました。

昭和 33 年卒　吉田静子さんが名簿に掲載されていますが、ご本人様から連絡を頂き誤報であることがわかりました。

誠に申し訳ございませんでした。

ご本人様ならびに昭和 33 年卒の同期の皆さまにお詫び申し上げ、訂正をさせて頂きます。